

(別紙4)

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872600255		
法人名	有限会社 ケアサポートかさい		
事業所名	グループホーム 銀の鈴		
所在地	兵庫県加西市畑町2289-59		
自己評価作成日	平成22年1月10日	評価結果市町村受理日	平成22年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルく兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2-27-19		
訪問調査日	平成22年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達、グループホーム・ケアスタッフは、認知小であっても、人間的に安心して暮らし、喜びと誇りをもって生活できるように支援し、ご入居者が築いてきた人生を、受け止め、その人らしく「安心して心安らぐ」暮らしができるよう、地域の人たちとも交流しあいながら、継続して生活できるよう支援いたしております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の静かな住宅街の一角にあり個人の住居の様な建物で、玄関周りにはお花や植え木があり、地域に溶け込んだアットホームな施設である。利用者の方々も居間のホームごたつでくつろいでおられ、それぞれのご家庭におられる雰囲気である。壁には利用者が作られたパッチワークや刺子などの作品が飾られていて家庭的な馴染みのある環境の中での生活が送れるよう支援されている。特に、管理者が現地域で親の介護にあたり、地域住民のお世話になったことから、在宅介護の実践者としての姿を地域住民に周知されており、信頼感が生まれ、協力関係ができてきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で家庭的な住環境と一人ひとりに対してのきめ細やかな対応で安心して生活が続けられるよう全員で支援をおこなっている。	家庭的な住環境の中で一人ひとりに対してきめ細やかなサービスを提供されていることが、利用者のゆったりとした生活の様子からうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へ積極的に参加し いきいきサロン、夏祭り、収穫祭などへの参加地域との交流を深めている。	管理者が自治会女性会の部長をされており、いきいき交流会で米粉を使ったケーキを作り、施設のPRをし交流を深めておられる。	施設の存在が、地域住民として認識されており、築き上げた信頼関係をよりいっそう発揮し、地域の社会的資源としての役割を担っていかれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	住み慣れた地域で生活し続けられることの重要性を運営推進会議や喫茶デーの場において説明したり、認知症への理解や介護保険の仕組みや支援の方法等を伝えている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模多機能サービスの利用者家族の参加もあり、状況報告を行い対応についての意見をいただくなど、サービス向上に活かしている	運営会議に新たに民生委員が加わり、2月に民生委員6名の見学も実施される。サービスの状況や意見を幅広く取り入れることが可能である。	今後はより多くの地域のニーズを取り入れ、サービスの向上に取り組むことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政参加によるグループホーム連絡会の場で市担当者と各ホーム職員間で連絡事項やサービス向上に関する意見交換を行い連携を計っている。	グループホーム連絡会で市担当者と職員との連絡事項やサービスの向上について意見交換を行い連携が計られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為については、全員で理解し取り組みを行っているが、ご家族の思いには、安全面を優先し、転倒防止のためやむをえない実情もある	お一人視力低下により、階段の転落の危険があるため、柵の設置がされている。生活環境の変化をさせないために、居住階を変更せず、柵を設置することはやむをえない処置であり、見た印象も違和感はない。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会において関連、流れについて学び理解を図った。虐待となる行動がいつも行っているケアに見逃されることが無いよう注意を払い防止に努めている。	勉強会が開催されており、家族関係のみまもりに務め、施設内は開放感があり、1ユニットという小規模施設の良さとして、家庭的な雰囲気も保たれている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い制度の理解を深めている。必要にあわせて活用できるよう取り組んでいる。	勉強会が開催されており、情報収集ができています。	職員自身も専門性にもとずく、学びの重要性を意識しており、職員の資質の向上を期待したい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書に添って詳しく説明し疑問点や不安などの事柄を確認しながら納得を得ている。	契約時に重要事項説明書を見てもらいながら説明をしている。他の施設の利用者に体験入居をしてもらい不安や問題点を取り除くようにされている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン説明時に意見や要望を聞く機会を随時に持ち運営に反映させる。	ご家族の面会時やケアプラン作成時に意見、要望を聞いて、面会のないときは郵送で回答を得ている。聞いた意見、要望を書類にして管理者に連絡し、運営に反映している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームの運営理念に基づいたケアとなるよう、職員からの意見を折に触れ聞き取るよう努めている	ホームの運営理念である地域に根ざしたサービスが提供できるように、職員からの意見を聞きとる努力をされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が意欲を持って働ける環境作りとして、処遇改善手当の導入により、やりがいに結びつく給与水準の見直しを図った		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部セミナーへの参加と研修会への参加を促し、スキルアップに繋げている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会において交流を図るとともにホーム内での相互見学が可能となりネットワーク作りとサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のニーズを把握するため今までの生活の様子を良く聞いて、安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して生活されるためにも、ご本人の自身の気持ちを大切に話し合い、ご家族の希望を良く聞き不安を理解した上で入居できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の見学を重視して、ホームの生活が望ましい事を見極めたうえで利用をすすめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生としての先輩として尊敬の心を持って接することを基本とし、プライドを傷つけないようにし、自信や信頼関係を深め、共に過ごし安心できる場所作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から、病院受診、外出、外泊時には支援の協力があり、共に、ご本人を支える関係を築いている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚友人に対して、季節の便りや面会の御礼などの手紙などを送れるよう積極的な働きかけを行っている。	馴染みの人々には、絵手紙などで便りを出せるように支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がそれぞれの部屋を訪問したり、世間話をするなどの関わりがあり、職員は、見守り支援を行っている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退去される利用者については、退院の際の相談援助を行ったりしその後の様子をさりげなく伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	在宅での生活の様子やご本人が大切に思っておられることを見極め、ご本人の気持ちについて理解し可能な限り情報収集を行い思いや希望に添えるよう努めている。	毎月「銀の鈴だより」を発行して、入居者の写真など載せてご家族の方に施設での暮らしをお知らせしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査表に基づき、きめ細かな把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	持てる力、心身状態を把握し見守りを基本にできることを見極め職員全体で話し合いながら、一人ひとりが張りのある生活が出来るよう努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居に際しては、面談等においてニーズを把握し、検討会議において職員間で話し合い必要に応じて、ご家族の意見を基本に介護計画を立てている。	リーダー(3名)のもとに入居者を3名のグループに分け、きめ細かく情報を収集して具体的な介護計画に生かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を入居者個々に記入しケアプランの共有と統一したケアを記録に残すのみならず都度話し合い計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の受診の際には職員が状態を説明するため付き添ったり、薬の受け取り、入退院のサポートなど都度、本人や家族の希望に合わせて支援を行っている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や地域の方の理解・協力により公園の使用や地域行事への参加をしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	眼科、神経内科、整形外科などは、ご家族との受診が主であるが医療連携体制により内科、歯科受診の代行をし家族には結果を報告している	受診はご家族の付添による自主受診で、定期的な内科、歯科受信は代行をしご家族に結果を報告されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の身体状況や体調の変化は家族への連絡とホーム看護師と相談をし、速やかな受診と適切な看護が受けられるよう支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ほとんどの家族の方は、入院時の疲れもあり早期の退院を望まれているので早期退院に向けての情報交換や相談により家族の意向に沿うよう努めている。		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制を導入したことにより重度化した場合や終末に向けた体制がとられている。ご本人やご家族の意思を最も尊重し取り組んでいる。	終末期の医療体制がとられていて、ご本人やご家族の意思を尊重し取り組んでおられる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時にあわてない応急手当について、マニュアルに沿って周知をおこなっている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難路の確保により速やかに安全避難ができるよう整備をおこなっている。避難訓練は、年に2回行っている。	避難通路の設置が完成し、速やかで安全な避難が確保されている。今後は完全な自動火災報知機の設置も計画されている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの理念である、人格の尊重は、まず一人ひとりの状況に応じた言葉遣いによりプライドを傷つけないよう、依頼形や丁寧語で対応している。	一人ひとりの状況に応じた対応をし、プライドを傷つけない言葉かけがされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりのペースに合わせ日常生活の中で訴えの無い場合でも言葉表情、仕草等により本人の希望を受けとめ出来る限り自己決定や感情の表現ができる様接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の暮らしの中での希望に添った楽しみごとを見つける支援(お習字・外出等)を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマや毛染めの美容院への同行や、日常及び外出時などその時々にあつた服装や整容でお洒落が出来よう支援している		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は最も楽しみであり、献立は希望を聞き、誕生日、正月のご馳走を楽しんでいただいている。また、食後の後片付けも出来る方には、お手伝いをお願いしています。	普段のおやつや誕生日、イベントのときなどには職員がケーキやお菓子を作って、楽しい雰囲気作りをされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量もほぼ全員が全量摂取されている。盛り付けの工夫をしたり、刻み食やスムーズに摂取できるよう配慮し昼間の水分、夜間のお茶の持ち帰りを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが困難な方の歯磨きは、毎食後行うようにし、義歯の洗浄は就寝前に必ず行っている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立度に合わせてパンツやパットを使用されているが、日中は必ず排泄パターンを把握しトイレでの排泄に向けた声掛け誘導を行っている。	日中は布の排泄パンツを使用されていますが、排泄パターンを把握しトイレでの排泄に向けた声掛け誘導がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には、胃腸に良いとされるカスピ海ヨーグルトや野菜類の摂取、又散歩や室内でのエアロサイクルを利用した運動を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自立の方には、希望に合わせる時間帯での入浴をされている。介助が必要な方には、入浴時の楽しい会話を交わしゆったりと入浴をされている。	自力入浴の出来る方は希望の時間帯に入浴をされている。介助が必要な方にはゆったりとした時間を過ごしていただくよう楽しい会話をしながら入浴の支援がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の室温管理は、巡回時に確認し体調や状況に似合わせた寝具や寝衣の清潔保持にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ほとんどの方がホームでの主治医による受診や服薬受け取りを行い内容は、理解している。又、症状の変化の確認にも努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で役割や出番があり最近では、ホームの菜園にて野菜の世話を楽しみにされたり、外出、散歩、刺し子、カラオケ等の楽しみ事の支援を行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩は日々されている。地域行事には、積極的に参加しご家族との外出、外泊時に外食、ドライブ等の支援がされている。又、ホームでも外食等、希望に添えるよう支援している	ご家族との外出、外食、ドライブなどの支援やホームでの外食などもご本人の希望に添えるように支援されている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状況に合わせて自己管理されている方もあり、又、ホーム側で預かり必要なとき適切に使えるよう管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話をしていただくなどしている。年賀状や絵手紙等を出せるよう場づくりをおこなっている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な居住環境を重視し、四季の草花を共有の場所に植え、室内の生花に季節感や安らぎを感じていただける環境づくりを心がけている。又、有線放送による音楽でゆっくりと過ごしていただけるムードづくりにも心がけている。	共用の空間にはお花や入所者の方々の作品が飾っており、生活感や季節感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームコタツやソファで過ごせる場所や廊下の長椅子で気の合った方との談話が楽しめるよう居場所づくりを工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの使い慣れた馴染みのあるものを持ち込まれ、今までの手作り作品や写真を飾ったりしてご自信が居心地良く過ごしていただけるよう工夫している	居室にはご自身やご家族の写真等が飾られ使い慣れた家具などもあり、ご本人が居心地良く過ごせるように工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活の継続や安全性から階段落下防止柵の取り付けを行った。日常的に使用するトイレの目印、洗面所、廊下等の常夜灯を点け明るくしている。		

基本情報

【評価実施概要】

事業所番号	2872600255
法人名	(有)ケアサポートかさい
事業所名	グループホーム銀の鈴
所在地	加西市畑町2289-59 (電話) 0790-43-7001

【情報提供表より】平成21年12月1日記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤2人 非常勤10人	常勤換算5.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	3階建ての 1階 ~ 3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円

(4) 利用者の概要(8月21日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	0 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 89 歳	最低 80 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関	医院1・歯科医院1
--------	-----------